

**平成30年度
望ましい学校づくり基本方針保護者説明会 意見・質疑
【山川地域】**

【8月7日（火） 山川小学校区（山川文化ホール）】

質問） 養護学校など、学校が違う子どもたちへの説明会の周知等の配慮がないため、置いてきぼりにされている感じがする。今は年2回養護学校と交流学习を行っているが、合併して大きい学校になっても交流学习をする時間があるのか。また、「地域交流」というキーワードが出てくるのであれば、障害がある子どもたちとも積極的に交流ができるようにしてほしい。

回答） 学校規模に関係なく、交流学习はしているので安心してほしい。学校長を中心に、連絡会などを開催しており、できるだけ配慮している。今後も上手く連携が取れるように進めていきたい。

質問） 事前アンケートで「参加したことがない」という保護者が4割もいる。合併が進んだ後で知らなかったという人が出てくるのではないか。

回答） これまで全世帯へのチラシの配布や広報紙、ホームページ、防災無線などで周知してきた。また、PTA総会に出向いて説明もしてきた。今後も周知に努める。

質問） 学校再編に賛成した学校は、学校施設の改修や教室へのエアコンの導入など優先的にしてもらいたい。少しは何か優遇されてもいいのではないか。また、現在自転車で通っている中学生をスクールバスに乗せることはできないのか。

回答） 学校再編の話が進んでいけば、施設の大規模改造工事が必要となり、学校施設改修等の優先度は高くなっているものと思われる。スクールバスについては、今後協議したい。

質問） 新しい小学校を中学校の近くに建てる可能性はゼロと考えてよいか。

回答） 可能性がゼロということはない。新しく造るのであれば、小中一貫教育のことを考えると、一体型の小中一貫校を造るのが望ましいと考えており、現在調査研究を進めている。

質問） 集約された学校の歴史の中に入っていくのは嫌。新しい学校でゼロからやっていけば、納得できる。

回答） 子どもたちが減っていく中で、できるだけ早く課題解決をしたいということで施設は既存校を活用する方針とした。吸収合併となるか新設合併となるかは現時点で決まっていない。

質問） 集約される学校の場所は、まだ全く白紙か。

回答） 現時点で白紙である。なお、颯娃地区の中学校再編を例にすると、防災面、施設面、

既存校との連携、通学面、防犯面、残った施設の利活用、建築費用などを参考としているようだ。

質問) 調整会議の委員7名はどのような方が選ばれたのか。また、委員以外の意見はどのように反映するのか。

回答) それぞれの小学校区から、地域代表者、幼児保護者代表者、小・中学校保護者代表者、校長先生、校区によってはその他教育委員会が認めその他教育委員会が必要と認める者の7名で構成されている。

調整会議で意見を求めた後、教育委員会で案を作り、説明会等で委員以外の意見を伺い、最終的な方向性を定める形を考えている。

質問) これから子どもを育てる方や子育て中の多くの方々が意見を言いやすいような場を設けていただきたい。

回答) 今回の説明会は、保護者の意見を伺いたいということで、小学生と幼児の保護者のみを対象とした。今後、時期は未定だが、全市民を対象とした住民説明会もやっていきたいと考えている。

質問) 調整会議が今年度設置されているが、調整会議について周知すべきだと思う。

回答) 今のところ調整会議が設置されたというお知らせはしていない。どのように周知していくことが望ましいか今後協議していきたい。

質問) 平成33年度に集約すると言っているが、改修にもお金がかかる。あと数年かかってもいいので、小中一貫校で新設という可能性はゼロか。また、集約に向けたスケジュールができているのか。

回答) 小中一貫校の新設について、先進地では決定から開校までに10～15年かかっている。その間にも子どもたちは減っていくので、できるだけ早い段階で複式学級を解消したいと考え、方針を定めた。教育委員会としては、引き続き小中一貫校については研究を進めていきたい。スケジュールについては、ある程度調整していく事項は決まっているが、具体的な時期については申し上げられない。

【8月9日（木） 大成小学校区（山川図書館）】

質問) 調整会議の委員は、どのような基準で選ばれたのか。また、会議の結果についてはどのように周知するのか。

回答) 委員は、地域代表者は各区長に、幼児保護者は幼稚園や保育園に、小・中学校保護者は各小・中学校PTAに推薦してもらった。

会議結果は、市民へはホームページ等での公開を考えている。また、教育委員会の方針が決まったら、住民説明会を開催予定である。

質問) 特別支援教育支援員の人数は、支援が必要な児童何人に対して何人という基準があるのか。また、集約されたときには、支援員の数が増えるのか。

回答) 配置される人数は、学校規模とは関係なく、学校からの要望に基づき、人数や内容によって配置している。また、現行予算でいけば、集約されてもそのままの支援員が配置されることになるかと現時点では考えている。

質問) 中学生の人数が少なくなってきた、部活動の廃部やその選択肢が少なくなっており心配である。開聞中学校との合併、生徒数の確保はどのように考えているのか。

回答) 部活動も教育の一部なのでなんとかしないといけないかと考えてはいるが、まずは、できるだけ早い段階で複式学級を解消したいと考えている。新しい学校を建てるとなると、開校までに10～15年ほどかかる。施設一体型小中一貫校のことについても、今後意見を伺いながら協議していきたい。

質問) 学校再編が平成33年度に向けて動いている中で、小・中学校へのクーラー配置はどのように進めていくのか。

回答) 猛暑が続く中、熱中症で死亡事故も起き、全国的に問題視されている。国においても対策を打たないといけないという動きがあるようだ。市も何らかの措置をとらないといけないので、現在協議中であるが、具体的にはまだ決まっていない。

質問) ある程度の規模で習熟度別授業や教科担任制ができるということだったが、10学級から12学級になったときに、必ずそのような教育をするということか。

回答) 説明の中では、こんな可能性がある、こんなことができそうだとすることを説明した。しかし、判断はすべて学校長であり、その学校の実態や実情によって異なってくる。

現在、大成小学校には、学級担任の他に教育方法改善の指導をする先生を1人加配という形で配置している。学級担任と一緒にクラスで授業をサポートするTT（チームティーチング）をする学校もあれば、学級を二つに分けて習熟度別で授業をする学校もある。いろいろ実態に応じて指導することができるようになる。

【8月23日（木） 利永小学校区（利永集落センター）】

質問) 3年後からスタートするのか。それとも、3年後までに話がまとまり、それから工事などして動いていくのか。

回答) 保護者や地域住民の御意見を伺いながら、「平成33年度に開校したい」と考えている。

質問) 協議に時間がかかりすぎている。みんな不安があるから反対している。良いと思ったことは保護者の方に十分に説明して、「やる」と言ったら短時間で決めなければいけない。早く進めてほしい。

回答) 説明会をしている中で、「初めて聞いた」という方もいる。今回は、幼児保護者にも説明会の案内を封書で送ったので、だいぶ周知はできたと考えている。今回、具体的な年度を示したので、平成33年度を目標にやっていきたい。

意見) もう決まっていると思って説明会に来た。早く決めたほうがいいのではないか。

意見) 区長を利用して、総会で話し合わせるとまだ早かったのではないか。

質問) 事前交流学习や交通手段など、不安に思っていることがたくさんある。具体的なことを教えてくれたら不安がなくなると思う。

回答) 教育委員会と学校とが連携をとりながら事前交流学习を増やしていく必要があると考えている。

質問) 案内が早かったので今日の説明会のことを忘れている人がいるのではないか。

回答) 今回は保護者説明会ということで広報紙等には掲載していない。住民説明会をするときには、広報紙に載せて、各世帯にチラシを配り、防災無線も流す予定である。

【8月30日（木） 徳光小学校区（徳光公民館）】

質問) 望ましい学校の基準は、国・県・市どこの基準なのか。

回答) 文部科学省が定めている標準規模もあるが、市では平成22年に策定した「指宿市望ましい学校環境整備計画」において、「小学校においては、1学級の児童数は21人から27人程度、1学年の学級数はクラス替えの可能な2学級以上が望ましい。中学校においては、1学級の生徒数は27人から30人程度、1学年の学級数は教科担任制の教員配置が可能となる3学級以上が望ましい」と定めている。

質問) スクールバスは、路線バスを利用すれば、病院等に行く時や学校に遅れて行く時も1便遅れて行くことができ行きやすいと思う。早退しないといけない時でも親の迎えがなくても帰宅できる。路線バスの存続にも繋がる。

回答) 地域の方も合わせて利用できれば、更に利用者も増えると考えられる。子どもたちにとってプラスになる部分を、今後協議しながら考えていきたい。また、遠方から通っている中学生をバスに乗せてはどうかという意見もいただいている。

質問) 学校再編を機に、働く親への支援のため、夜まで子どもたちが過ごせるような学校づくりをしていただきたい。

回答) 子どもたちが安心・安全な場所で放課後を有意義に過ごしてほしいという思いがある。できれば学校の敷地内にそのような場所があれば、安全でいいのではないかと考えており、今検討をしているところである。

質問) 9年間を見通した教育ということだが、私立中学校を受験する子どもたちにとって、授業が遅れないようにしてほしい。

回答) 基本的な学習内容は、全国どこでも同じなので安心してほしい。小中一貫教育で目指しているものは、小学校入学時から中学校卒業までの9年間を見通した教育であって、卒業する頃にこうあってほしいという将来像を目指して取り組んでいくことである。

質問) 平成33年度を目途というのは決定なのか。また、なぜ、山川・開聞地域だけ33年度を目途にするのか。

回答) 平成33年度の開校を目標に協議を進めている。この方向性は、平成26・27年度に地域ごとに設けた「学校のあり方について考える会」において「開聞・山川地域においては、集約することが望ましいのではないか」という御意見をいただき検討を進めているところである。また、開聞・山川地域で8校を1校にするということも研究していくが、まずは、複式学級を解消したいと思っている。指宿地域については具体的な方針が出ていないので、今後協議していく予定である。

質問) 子どもへの説明やアンケートなどはどう考えているのか。

回答) 子どもたちに意見を聞くのは大事だと思うが、教育を受ける環境は、大人のほうで整えていく必要があるのではないかと考えている。しかし、やはり子どもたちからの意見が必要だとなった場合には検討したい。

質問) 平成33年度を目標にしているのであれば、平成32年度には議決が必要ではないか。

回答) 具体的には言えないが、「決定してからすぐに集約」ということにはならないと考えている。議会での議決の前にはもう一度説明会を開催したいと考えている。

質問) お下がりや譲り合いなどを考えると、制服や体操服の準備期間が2年くらい必要だと思う。開校の2年くらい前までには決定してほしい。

回答) せめて1年前にはある程度決まっていなないといけないと考えている。協議項目について現在資料等を作成しているので、今後調整会議等で意見を伺っていきたい。

質問) 記念碑を建てても、跡地を活用する人にとっては邪魔ではないか。今ある卒業記念碑等についても考える必要がある。

回答) 宮崎県や大分県等の先進地では、学校跡地がキャンプ場やレストラン、コワーキングスペース、幼稚園、高齢者福祉施設等になっていた。記念碑については想定していなかった事項なので今後協議していきたい。